

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	グローバルエンジニア育成のための工学部海外短期研修 in Malaysia	
学部・研究科名	工学部	
実施期間	2015年9月2日～9月24日	
研修先(国・都市・施設名)	マレーシア クアラルンプール マラヤ大学・マレーシアブトラ大学	
参加学生数	： 10名	知の森基金からの支援者 ： 9名
プログラム概要	工学部では、夏休み期間中の2015年9月、マレーシアにある信州大学の学術協定校に10名の学生を派遣し、専門的な講義や実習を体験する約3週間の短期派遣プログラムを実施した。マラヤ大学・マレーシアブトラ大学に各5名が派遣され、大学内の学生寮で生活しながら、各自の専門に応じた英語で行われる授業を聴講し、実験や実習にも現地の学生に混じり参加した。マレーシアの歴史や文化、宗教を学び体験、また日本を発信するという文化交流を通じ、視野を広げ、将来グローバルエンジニアとして世界で活躍するための課題や目標を見つけ、留学や将来の進路を探るきっかけとなる研修となった。	

実施状況・成果

◆事前ガイダンス(事前研修) (6/8・7/2・7/23の計3回実施)
本短期留学の目標・目的設定、海外渡航に関する安全指導、留学手続きや授業受講に関する指導、訪問国に対する事前勉強、日本発信のための資料作成等を行った。また、工学部English café及びグローバル教育推進センター主催のPractical English Workshopにより英会話力の向上を図った。派遣先大学のシラバス等を利用し、事前に受講する講義を調べ各自時間割を設定、専門英語の予習等、授業受講に向けての事前準備を行った。

◆短期留学(9/2～9/24)
参加者はそれぞれマラヤ大学(UM)、マレーシアブトラ大学(UPM)の学生寮に生活し、一般の学生と同様、各自の専門に応じた英語で行われる授業・実習・実験等を受講した。また、留学生を対象とした研修旅行や交流会等、交換留学生の留学生生活を3週間に圧縮した「海外留学シミュレーション」を行った。留学体験を通じて、今後の中長期の留学や海外大学院への進学、研究留学等を検討する契機となった。
当初は生活習慣の違い、衛生感覚の違い、発音に特徴のある英語等カルチャーショックもあったようだが、次第に順応し、滞在後半には積極的に授業やスポーツ、寮生活を通じて現地の学生と行動し、マレーシアでの生活、習慣、宗教等を学ぶだけでなく、日本文化を紹介する等の文化交流も行った。異文化に直接触れ、理解し適応する中でコミュニケーション能力や問題解決力、柔軟性や積極性が養われ、今後グローバルに活動していくための素養を涵養することができた。

◆帰国報告会(UM10/19・UPM10/26)
派遣先大学毎に、工学部にて報告会を行った。また、工学部English Caféにおいても、代表学生により英語の報告プレゼンテーションが行われた。(UM11/6・UPM11/27)

学生の声①ー工学部 学生

実際に受けた授業に関して、教官によっては英語がとても速く耳だけでは理解できない部分もあったが、渡航前に予習していた工学に関する式やグラフが一致する事も多くあり何とか内容についていくことができた。また、教官と学生の距離が近く授業中に頻繁に質問している姿が印象的であった。
渡航前は留学と言えば語学の習得が主なものだと考えていたが、そうではなく、自分の工学の専門や人間性の幅を広げるための知識を得るために行くのであって、英語はそのために必要なパートに過ぎないということに気づいた。今後の目的としては国際的に活動できる技術者になるべくこの研修で得た固定概念に囚われない考えや積極的な姿勢を忘れずに授業や研究活動に取り組んでいきたい。

学生の声②ー工学部 学生

マレーシア人はとてもおおらかで親切だ。何も知らず、コミュニケーションもままならない日本人を受け入れて、昔からのクラスメイトのように接してくれる優しさに私は何度も救われた。私は日本語もあまり通じないような外国からの留学生に同じように接することができるだろうか？多民族国家で全く異なる文化を持つ他者を受け入れることに抵抗がないマレーシア人だからこそできることである。日本人が見習わなければならないことは多い。人と人とのつながりの大切さを痛感した3週間でもあった。
国が違えば価値観が異なるように、この国では今までの自分の価値観はあまりあてにならない。その場の状況を見て、考え、行動しなければならなかった。この海外研修は間違いなく自分に成長をもたらし、自分を見つめ直す良い機会となった。

Malaya大学



UPM

